

令和4年度 島根県立松江東高等学校 学校評価表

令和4年度教育目標		分類	評価計画		アンケート	評価	分掌等による自己評価まとめ		学校関係者評価		学校関係者評価をうけて次年度への改善策
			令和4年度の重点目標と具体策	令和3年度末の次年度への改善策 *学校評価	評価指標	項目	評価	成果と課題	評価	意見	
人となりがあって生きる力を向上させる (人間力) ... 多文化協働力	1	自他の人権を尊重し、互いが高め合う切磋琢磨を推奨する。	生徒に柔らかに丁寧に向き合い、生徒が安心して学べる集団作りを行う。	すべての教育活動の基盤に生徒指導を据え、人権感覚を高めるための研修や授業改善を進める。入学後の早い段階で生徒が他者と協働するための取組や情報モラル教育を実施していく。	・生徒の感想文。 ・生徒アンケート・保護者アンケートの評価。 ・いじめアンケート、生活アンケート等の実施と分析。 ・平素の生徒の観察。・出席率、遅刻回数	1,2	A	生徒に対し体系的な人権教育を実施する一方、新たに生活アンケートも取り入れ、学校全体で人権尊重を基盤とする教育活動を推進した。いじめやSNSでのトラブル等の生徒指導上の問題は、生徒部と学年会が連携して取り組み、いじめ対策委員会等を実施して、組織で解決に向けて対応した。今後も情報リテラシーに関する継続的な指導が必要である。	A	学年会や関係分掌、委員会と連携しながら教育活動の基盤に生徒指導を据え、人権感覚を高めるための研修や意識調査を実施する。生活アンケートの項目をより実態的なものに変更し、効果的なものにしていく。入学後の早い段階で生徒が他者と協働するための取組や一人一台PCの状況に合わせて、情報モラル教育の充実を図る。	
	2		生徒に様々な活動に参加させ、生徒のコミュニケーション能力を高める。	感染症予防対策を今後も呼びかけ、校内環境の整備と改善を実施する。生徒支援委員会の機能を活かすとともに、学年会と連携して校内の教育相談体制(教育的支援は教員が行い、心理的支援はSC、福祉的支援は学校福祉連携推進教員へ繋ぐ)を充実させる。	・対象生徒の状況。 ・スクールカウンセラーの活用状況。 ・気づきシートや支援計画・指導計画の作成と活用状況。 ・生徒面談の回数、状況	3, 4	A	生徒会の保健委員が、黙食などの徹底について校内放送で呼びかけ、啓発を行うなど、学校をあげて感染防止対策の周知を徹底した。担任、保護者、学年会の連携を図り、生徒支援委員会等で支援の必要な生徒の情報共有と具体的な支援を行った。保健相談部と学年会が連携して、本人・保護者の希望に合わせ、スクールカウンセラーの紹介や周知を行い、積極的な活用ができた。特別支援教育コーディネーターは、個別の支援が必要な生徒の相談窓口となり外部機関ともつなげ、協力して生徒への支援を行うことができた。			生徒支援委員会の機能をさらに活かすとともに、学年会と連携して校内の教育相談体制(教育的支援は教員が行い、心理的支援はSC、福祉的支援は学校福祉連携推進教員へ繋ぐ)を充実させる。今後も計画的に文書やHP、便りによる適切な情報提供を行い、教職員の丁寧な声がけと情報収集を図る。
	3		生徒が主体的に関わり実践する活動の機会を意図的に増やす。	部活動は生徒数の減少などの実態をふまえながら、さらに活性化を推進する。生徒会や委員会活動、校外での活動など、生徒が主体的に関わり実践する活動の機会を意図的に増やす。	・部活動加入状況。 ・HPや学校だよりでの情報発信の状況。 ・生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	5	A	部活動に全校生徒の8割強が加入し、上位大会で結果を出す部が増えた。生徒会が中心となって企画運営した学園祭(東雲祭)は、感染症対策を工夫して実施し、生徒から高評価を得た。生徒が自分たちで企画して実践していく自主的な活動が増えつつあるが、生徒会が主体となったあいさつ運動、東高カフェなどボランティア活動を今後ともさらに広げていく工夫が必要である。			部活動は生徒数の減少などの実態をふまえながら、さらに活性化を推進する。生徒会や委員会活動、校外での活動など、生徒が主体的に関わり実践する活動の機会を意図的に増やし、学校全体で盛り上げる体制づくりをする。
自己の未来を切り拓いていく力を向上させる (学力) ... 主体的学習者としての力、探究的学習力	4	自ら取りに行く学びを实践する生徒を育てる。	「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の推進に努める。	教務部と学年会が中心となって、進路指導部・魅力化推進部と連携を深め、効果的な学習指導体制の構築を進めていく。主体的に学ぶ必要性を生徒が実感し、行動に移すことができるように学年会を中心に取り組む。	・授業評価アンケートの結果。 ・学習時間調査の結果。 ・学習成績、実力テスト成績。 ・生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	6, 7	B	ICTを積極的に活用するなどして、授業評価アンケートでは概ね良好な結果が得られたが、学習時間調査、ETC、模試等の結果から、学習時間や基礎学力の定着に結び付いていない生徒がいることが把握できる。生徒の学力を定着させ伸ばしていくためには、さらなる授業改善やETCや学習時間調査等の方法を改善する必要がある。教務・進路・学年会が連携して生徒の主体性を伸ばす動機付け、働きかけを継続的にを行い、学習時間を確保させるよう取り組みを進める。	A	主体的に学ぶ必要性を生徒が実感し、行動に移すことができるように教務部と学年会を中心に取り組む。学校全体で学習に向かう姿勢を高めていくようにする。学習時間調査の集計は迅速に行い、その結果を職員全体で共有する。家庭学習時間が増えない理由について調査提出時にアンケートを行い結果も共有する。	
	5		生徒が自発的に活動する場と機会の設定に努める。	授業公開・研究授業、研修等に学校全体で取り組むことで教科横断的な取組をさらに進める。生徒の一人1台PCの効果的な活用を研究し、生徒の「取りに行く学び」につながる授業改善に取り組む。	・公開授業・授業研究の実施・参観状況。授業評価アンケートの結果。校外研修、研究会等への参加状況。 ・学習センター(図書館)に関する生徒アンケート及び貸出率	8, 9	A	計画的に授業公開を実施し、また、ICT研修や先進地高校訪問などにも多くの教員が参加して情報共有をはかるなど、授業改善や評価の改善に取り組むことができた。今後も授業改善の研究と実践を進めていくが、ICT活用の学習効果について検証する必要がある。学習センターは図書展示の工夫や移動図書館等で活動を活性化しており、授業での活用が充実しつつある。今後も学習センターの機能強化と広報活動を推進していくことが必要である。			授業公開・研究授業、研修等に学校全体で取り組むことで教科横断的な取組をさらに進める。生徒の一人1台PCの効果的な活用を研究し、生徒の「取りに行く学び」につながる授業改善に取り組む。他教科の授業を参観することが教科横断的な取組も継続して、公開授業・研究授業等を学校全体で取り組む。引き続き、授業での図書館利用を支援する。
	6		系統的・計画的な進路指導により、個に応じた進路目標の具体化を進める。	島根大学や地域等の外部人材も活用しながら、生徒の主体的なライフデザイン形成に寄与する授業や学校行事の展開と工夫を行う。進路指導部が中心となって学年会と協力した進路指導体制の再構築を図る。	・PTA総会への参加状況 ・生徒・保護者面談の実施状況 ・進路希望調査状況 ・進路検討会等への参加状況 ・共通テストの結果 ・平素の生徒の観察。・生徒の進路達成状況	11,12	A	松江東高校の進路の手引き「保護者版」を作成し周知できた。各学年が計画的に生徒面談を行い、進路や学習面でのサポート体制の充実を図った。また保護者面談を実施し、生活面も含めた家庭との進路情報の共有を図ることができた。総合型入試や学校推薦選抜入試で生徒の活動歴が生かされた。今後も、進路の目標設定に関する生徒の主体性を引き出し、保護者との連携を深めるために、3年間を見通した体系的な進路指導体制をより強化し、学年会、教務、魅力化推進部との連携を図っていく必要がある。			島根大学や地域等の外部人材も活用しながら、生徒の主体的なライフデザイン形成に寄与する授業や学校行事の展開と工夫を行う。進路指導部が中心となって学年会と協力した進路指導体制の再構築を図る。土曜講座を活用し、小さな成功体験を積ませる。模試の活用方法を工夫し、実施後の指導体制を整える。各種講座の目的を明確にし、意図的に受講させる。
	7		地域の大学や地域との連携を推進し、生徒が地域作りの担い手として活躍できる機会を増やす。	地域や外部と協働した授業や活動をさらに展開し、生徒の主体的な地域・社会とのつながりを紡ぐ。生徒が自らのあり方・生き方を模索しながら、地域にアクションを起こして行こうとする力を育む。	・高校魅力化アンケート。 ・総合的な探究の時間の各プログラムの事後アンケートの結果。	13	A	島根大学や松江市役所、川津公民館、市内企業等と連携して、「総合的な探究の時間」の授業を中心に課題探究型の学習を実施している。この取り組みの中で東高カフェやキラ星共創プロジェクト等、活動に主体的に参加する生徒が増えており、魅力化アンケートで資質・能力の伸びが現れている。コンソーシアム等の外部資源と協働しながら、次年度以降の実践について取組の強化を推進していく必要がある。			MATSUE探究での地域連携の改善と持続可能な活動を推し進める。発表形式の段階的な指導を実施する。地域や外部と協働した授業や活動をさらに展開し、生徒の主体的な地域・社会とのつながりを紡ぐ。今後もコンソーシアム等の外部資源と協働しながら取組みの強化をはかり、生徒が自らのあり方・生き方を模索しながら、地域にアクションを起こして行こうとする力を育む。
地域社会の今と未来に関わる力を育成する (社会的自立力、地域共創力)	8	地域への貢献意欲を向上させ、地域に信頼される学校づくりを行う。	生徒が学びを振り返り、自分のこれからの生き方・あり方を探究する。校内や地域、外部での活動をさらに支援する。	・高校魅力化アンケート・生徒アンケート・保護者アンケートの評価。 ・平素の生徒の観察。 ・地域の方々の声。	14	A	島根大学、松江市や公民館、地元企業などとのつながりが様々なボランティアや行事を通じて継続され定着してきた。地域とのつながりを求め、朝朝川フラーワーププロジェクトなど校外での諸活動に主体的に参加する生徒が増えてきている。今後も外部資源と連携して、生徒の活動の機会を提供する場面を増やしていく。	A	朝朝川フラーワーププロジェクトなど現在校外で生徒が主体的に参加している諸活動を継続しつつ、今後も外部資源と連携して生徒が学びを振り返り、自分のこれからの生き方・あり方を探究する、校内や地域、外部での活動を増やし、さらに支援する。		
	9		ホームページや学校便り等により積極的に情報発信を行う。	学校の取組をすみやかに紹介するHPの更新頻度を高め、構成や内容の整理を行う。保護者や中学生の関心が高い課題探究型の学習や部活動の情報を充実させ、多くの人に松江東高等学校の魅力を発信する。	・保護者アンケート。 ・ホームページの更新状況や閲覧状況及び動画の視聴回数。	15	A			ホームページの更新頻度を上げ、学校だより「EASTNEWS」等の発行をとおして本校の現状を継続的に発信している。今年度も本校のPR動画を作成して中学校に配布し、HPで公開した。また、中学校を訪問しての学校紹介の機会を活用でき、オープンスクール参加者が微増し、参加者の満足度が上昇した。今後も本校の魅力を伝える情報発信に注力していく必要がある。	学校の取組をすみやかに紹介するHPの更新頻度を高め、構成や内容の整理を行う。保護者や中学生の関心が高い課題探究型の学習や部活動の情報を充実させ、多くの人に松江東高等学校の魅力を発信する。
	10		ホームページや学校便り等により積極的に情報発信を行う。	学校の取組をすみやかに紹介するHPの更新頻度を高め、構成や内容の整理を行う。保護者や中学生の関心が高い課題探究型の学習や部活動の情報を充実させ、多くの人に松江東高等学校の魅力を発信する。	・保護者アンケート。 ・ホームページの更新状況や閲覧状況及び動画の視聴回数。	15	A			ホームページの更新頻度を上げ、学校だより「EASTNEWS」等の発行をとおして本校の現状を継続的に発信している。今年度も本校のPR動画を作成して中学校に配布し、HPで公開した。また、中学校を訪問しての学校紹介の機会を活用でき、オープンスクール参加者が微増し、参加者の満足度が上昇した。今後も本校の魅力を伝える情報発信に注力していく必要がある。	学校の取組をすみやかに紹介するHPの更新頻度を高め、構成や内容の整理を行う。保護者や中学生の関心が高い課題探究型の学習や部活動の情報を充実させ、多くの人に松江東高等学校の魅力を発信する。